

ショートコメント vol.293 (2023年8月29日)

テーマ：数量ベースでみる輸出悪化の深刻度

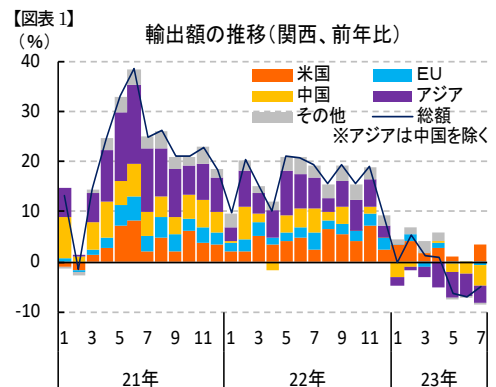
～中国向けは10か月連続で2ケタ減の惨状～

●輸出の減少

足元で輸出の悪化傾向が目立っている。直近7月は全国で21年2月以来のマイナス、関西では3か月連続のマイナスとなった。全体的にはアジア向けの鈍化が激しく、中国はもちろん、台湾や韓国のアジアNIEs、東南アジアを中心としたASEANでも減少が進んでいる(図表1)。

さらに欧州向けについても、直近は域内経済の停滞を背景に失速が目立つ。結局のところ、米国向けだけが堅調な推移となっているが、輸出全体をけん引するほどの力強さには欠ける。

アジアと欧州では悪化要因が異なるものの、外需全体の減少が進んでいることは間違いなく、景気への影響を警戒が必要な状況といえよう。



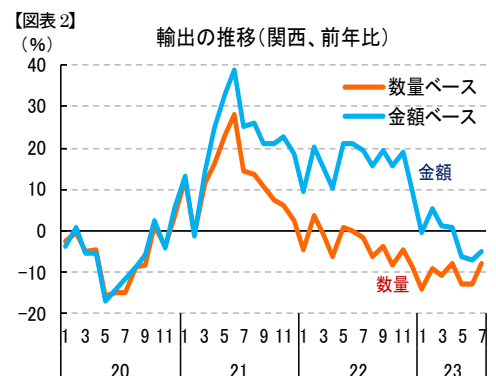
(出所)財務省「貿易統計」、以下同じ

●数量ベースでみた輸出

さらにいえば、足元は金額ベース以上に、数量ベースでの悪化が進んでいる(図表2)。原材料のコストアップによる価格の上昇に加え、円安の進行に伴い、円換算での輸出額の上振れにつながっている。

それらの影響を除いた、数量ベースでの輸出の推移をみると、全国では10か月連続、関西では14か月連続のマイナスとなっている。直近でいえば、関西は23年1月からの7か月で4度の2ケタ減を記録するなど、厳しい落ち込みがみられる。

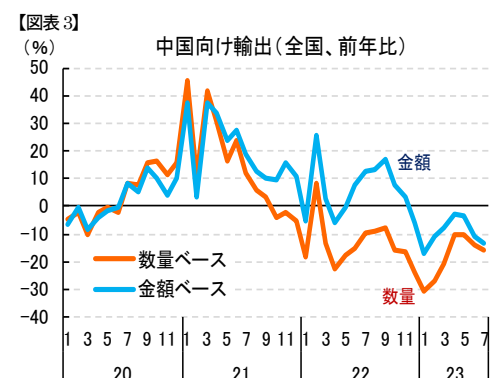
こうした状況をみる限り、外需の実態は深刻にとらえざるを得ず、回復時期についても楽観視が許されない状況といえよう。



●中国向け輸出の動向

一方、昨今の輸出の鈍化については、特に中国向けが注目される。中国経済の悪化が世界全体の懸念材料となる中、数量ベースの輸出の動向による、需要の実態把握の必要性は高い。

図表3は、全国での中国向け輸出の状況であるが、数量ベースでは17か月連続のマイナスとなっている。特に、直近の10か月は2ケタ減となるなど、厳しい状況にある。



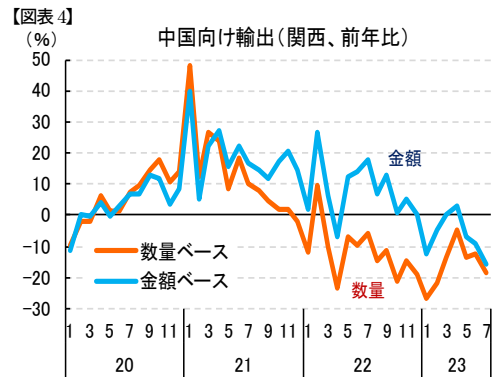
次ページの図表4は、同じく関西の動きであるが、全国と同様に厳しい。17か月連続のマイナスとなっ

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。

ているほか、直近は2ケタの減少傾向が続いている。

こうした状況から判断すると、中国国内では企業の生産活動だけでなく、個人消費の鈍化も進むなかで、需要全体の落ち込みが続いていることは間違いない。全国、関西での2ケタ減という動きからすれば、相当に厳しい状況にあると考えざるを得ない。こうした傾向が長引くほど、中国と結び付きの強い東南アジア等への影響も避けられず、ひいてはアジア全体の停滞にも警戒が必要となろう。

中国経済の回復時期は現時点で不透明であるが、数量ベースの輸出動向の推移は一つの判断材料とみられる。裏を返せば、この数値が水面下にある間は、中国経済に対する楽観視は禁物といえよう。



本件照会先：大阪本社 荒木秀之
TEL：06-6258-8805 mail：hd-araki@rri.co.jp

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。